

学校教育目標(本校の生徒像)	重点目標(中・長期的目標)
1 常に進歩のため問題をもってことにつく 2 常に成功の可能性を確信してことに当たる 3 常に協調融和の精神をもってことを行う	1 いじめ・体罰の根絶と、安心・安全の学校づくり 2 個に応じた進路指導と生徒の進路実現及び学習集団づくり 3 ICT機器の利活用の研究と推進による学びの充実 4 自主的に活動できる態度の育成
<h2>今年度の重点目標</h2>	進路指導について 1 個々の生徒の進路希望実現のために、学習習慣定着を含めた 2 高大接続に係る現行入試制度の研究を行い、学年を超えた 1 南高生に相応しい身だしなみと生活を確立させる。 2 暴力行為といじめおよび類似行為を根絶する。 3 貴重品等の管理を徹底し、盗難・紛失防止を図る。 4 社会的マナーの向上を図る。
	生徒指導について 1 生徒会の自主活動を通じて、主体的な行動のできる人間性をはぐく 2 生徒会の諸行事を企画・運営し、活動を活性化するとともに、その 3 生徒自らが学校生活の充実・改善を図る。 4 地域へ情報発信するとともに、地域社会に貢献する活動を推進す 5 クラブ活動の活性化と応援意識の向上を図る。
	生徒会活動 自主活動について

領域	対象	実施項目／目標	評価の観点・方法	最終評価(成果と今後の課題等)	
教育活動	進路指導	進路希望調査、生徒面談、保護者懇談 模擬試験の活用	学級担任、教科担任への聞き取り調査による評価	年内入試は総合型の増加が激しかった。対応するべく教員の指導・業務が増加傾向にある。一般入試まで意欲を持って取り組ませることが難しくなっている。3年生の模試は希望者受験とした。今後も模試の在り方については引き続き検討が必要である。	
		共通テスト、高大接続等に関する職員の情報共有と研究	職員会等を通して、カリキュラムに活かすことができたか。	毎年、3月中旬に「進学検討会」を開催し職員の情報共有を図っている。また大学入試情報を含めた情報等は、進路通信(駒草通信)を発行して全校生徒・職員に提供した。	
		進路講演会等による進路決定のサポート	それぞれの実施項目が生徒の実態に即したものであり、生徒の進路実現に寄与したものであったかどうか。	面接指導・小論文指導は全職員で協力し行うことが出来た。ただし、総合型入試、推薦入試を希望する生徒が増加し、また、生徒が希望する分野に偏りがあり、一部の教科の先生には複数名の生徒の指導を同時にお願ひするということとなり、大変無理なお願ひをしていることを申し訳なく思います。先生方は快くお引き受けいただき、本当に感謝申し上げます。小論文指導は1、2年時から指導を積み重ねている。3学年を中心に平日セミナー、放課後セミナーを実施。夏季休業中も十分時間を確保することができ、生徒も意欲的に参加することが出来た。	
		「学習の手引き、進路ノート、進路の手引き、進路通信」の発行			
		出願、面接、小論文指導(3学年) セミナーの実施			
	学力向上	補習、セミナー、テスト前学習等の実施 入試・模擬試験の分析と授業方法の改善 年内入試から一般入試まで進路実現への早期対策・準備 家庭学習時間確保のための取組み	それぞれの実施項目が生徒の実態に即したものであり、生徒の進路実現に寄与したものであったかどうか。	セミナーについては一般入試受験予定の生徒のために大学入学共通テスト後も実施した。特編授業、夏季セミナー等について計画通り実施。模試の状況については全職員で共有した。	
		研究・研修	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究 進路研究会(職員対象)の実施	生徒アンケートにより評価する。 職員アンケートにより評価する。	家庭学習時間調査の結果を踏まえて、個人面談等を行い、週末課題の指示などにより改善を促した。 タブレットをはじめ、ICT機器を積極的に活用した授業が多く見られるようになった。 本年度は10月に予備校の講師による研修会を行った。3月には進路結果の引継ぎ会を予定している。
	教育課程	教育課程の検証および実態に合わせた改善 進路実現のための生徒の希望に添った選択科目講座の編成	教務係、ビジョン委員会と連携し、検証・検討できたか評価する。 効果的な講座編成の見直しが見直しができたかを評価する。	3学年すべてが新教育課程となったが、引き続き検証し、改善が必要なものについては検討をしていきたい。 開講できる講座数に限度があり、一部希望に添えない状況が生じている。	
		生徒指導	南高生にふさわしい身だしなみとなるよう指導する。 いじめ・暴力行為の防止に努める。 交通安全を徹底する。 携帯電話、SNSの適切な使用方法を指導する。 無断アルバイトがないよう努める。 飲酒・喫煙・薬物防止の指導をする。 盗難防止及び現金・貴重品の管理を徹底する。	身だしなみの乱れはなかったか。 定期的な面談や生徒アンケートを活用する。 自転車事故等の件数を最小限にとどめられたか。 携帯電話、SNSの使用にあたって問題はなかったか。 許可制であることを周知する。 飲酒・喫煙はなかったか。 現金・貴重品の管理を徹底できたか。	全体としては良好であるが、頭髪・ピアスに関して若干名指導の必要のある生徒がいた。 コミュニケーション不足から友人間トラブルになり相手を傷つけてしまうような事案があり指導した。 昨年度と比較すると3分の1に減少したが、報告されない軽微な自損事故は少なからずあると感じている。ヘルメットの着用を積極的に働きかけるとともに、自転車に関する罰則の厳罰化に対しても注意喚起していきたい。 今年度指導事案はなかったが、注意喚起は必要である。また、授業時におけるタブレットも含めた目的外使用について指導の困難さも生じている。 今年度指導事案が2件あった。また、表に出てこない無断アルバイトがある程度あるのではないかと考えている。 該当する事例報告はなかった。 今年度指導事案はなかった。部室荒らしと思われる状況があり警察とも連絡・連携をした。施錠の徹底や私物の管理について指導を継続していく。
	生徒会活動		委員会活動の企画・運営と活性化、生徒会各種行事の企画運営	主体的に創意工夫のある企画運営ができたか。	生徒会執行部は、定期的に本部会を開催し、情報共有を図ることで、各行事の企画・運営に取り組むことができた。一方で、議論の深まりや役割分担の明確化には課題も残った。各委員会は委員長を中心に年間活動計画に沿って活動できたが、委員一人一人の主体性をさらに引き出す工夫が必要である。後期からの新体制では、全県文化祭ガイダンス・生徒会交流会に参加し、来年度に向けた意識づくりを進めた。また、岡谷東高校との合同ミーティングを行い、同じ地域で学ぶ仲間としての意識を高めることができた。
			学校生活の改善に向けた取り組み	学校生活の改善に向けた意識が持てたか。	各委員会の活動を通して、さまざまな場面で全校生徒の意見を取り入れながら、保健ニュースの作成・掲示や中庭整備、黒板消しクリーナーの清掃・点検などに取り組み、より良い学校生活の実現に努めた。一方で、当番活動への主体的な取り組みにはばらつきが見られ、自治意識の育成という点では課題も残った。
			南高祭の企画と運営	地域へのアピールと全校生徒が主体的にかかわっての企画運営となったか。	アンケート結果から「満足した」が、95.4%と極めて満足度が高い文化祭が行えた。例年、諏訪地区で最初の開催であり、湖畔駐車場の利用も可能なため、来場者数が1800名を超え、地域に密着した文化祭ができている。更に、文化系クラブの発表、展示などが充実できるよう工夫をしたい。
			地域貢献活動等の推進	積極的に地域事業等に関わる事ができたか。	岡谷図書館祭、子ども食堂支援、新年祝賀式典・諏訪子ども人権のつどいにおける司会などの様々な地域事業に、生徒会執行部、JRC部、放送部、図書委員会が関わることができた。
	学校運営		行事	強歩大会の企画運営	大会参加率を向上させ、すべての生徒が安全に活動でき、完歩率90%以上を目指す。
		授業公開	授業公開の実施	12月に公開授業週間5日を設定する。これらの機会を通じ、参観者の要望・意見を十分に吸収し、それを授業に反映させることができたかどうか。また、中学生や保護者に本校を理解してもらったか。	PTA、同窓会の協力を得て、安全面に配慮して実施することができた。完歩率は92.2%で目標を達成できた。
			体験入学の実施 本校の特徴についてわかりやすく説明し、多くの中学生に本校を志望してもらえよう努力する。	参加した中学生に、本校の魅力を知ってもらい「よかった」「参考になった」と思ってもらえたかどうか。	4月PTA総会の午前中に保護者向けに授業公開を行った。 10月15日(水)午前の授業を中学生とその保護者向けに授業公開した。「大変参考になった」または「参考になった」と回答した方が約99%で、概ね本校のことを理解していただいたと考える。 12月8日(月)～12日(金)の授業を中学生とその保護者向けに学校説明と授業公開した。「大変参考になった」または「参考になった」と回答した方は100%で、本校のことを理解していただいたと考える。
		地域・他者との交流活動	地域の小中学校との交流活動 地域で開催される行事への生徒の参加の促進	生徒会執行部をはじめ委員会やクラブなどによる地域事業への参加を促進することができたかどうか。	7月30日(水)に中学生とその保護者、および中学校の先生向けに体験入学を行った。「参考になった」と回答した方が約96%で、寄せられた感想から「本校の魅力」を知っていただけたと思う。
		広報活動	学校公式Webページの管理・更新	Webページの更新を頻繁に行うことができたかどうか。新聞などさまざまなメディアを利用して本校の活動実績を広く宣伝することができたかどうか。	コロナ禍があげ、対面活動ができるようになったことを背景に、本校生徒会執行部、各クラブへ地域事業へのかかわりの依頼が増え、積極的に参加することができた。また、生徒自ら考え、自らの意思で地域貢献する場面も見られた。
	教育活動や各種イベント等の情報発信			HP上の「トピックス」、「学校からのお知らせ」の更新を進めることで、情報発信をすることができた。本年度リニューアル予定。 一般紙を通して情報発信をすることができた。	

A:十分 B:おおむね十分 C:やや不十分 D:不十分

領域	対象	実施項目／目標	評価の観点・方法	評価	学校関係者より
教育活動	進路指導	進路希望調査、生徒面談、保護者懇談	学級担任、教科担任への聞き取り調査による評価	A	○ 評価された点(成果と取り組み) ・総合型選抜をはじめ、年々複雑化する大学入試制度に対して、教職員が精力的に指導と関連業務に取り組んでいる姿勢が評価されました。 ・教職員の負担が重くなる中においても、個々の生徒の状況に寄り添った丁寧できめ細やかな進路指導が行われていることに対し、感謝の言葉が寄せられました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望) ・昨今の傾向として、推薦入試等で無難に進路を決定する生徒が増加し、国公立大学や一般入試へ挑戦する生徒が減少傾向にあることへの懸念が示されました。 ・自身の限界まで上を目指して入試という壁に挑み、それを乗り越える経験を通してこそ得られる「本当の達成感や喜び、自信」を、より多くの生徒に体験させてほしいという強い期待が寄せられました。 ・中学時代に「国公立大学進学」という目標を掲げて入学してきた生徒たちが、途中で妥協することなく、当初の高い目標を最後まで持ち続けられるような指導の強化が求められました。
		模擬試験の活用			
		共通テスト、高大接続等に関する職員の情報共有と研究	職員会等を通して、カリキュラムに活かすことができたか。		
		進路講演会等による進路決定のサポート	それぞれの実施項目が生徒の実態に即したものであり、生徒の進路実現に寄与したものであったかどうか。		
		「学習の手引き、進路ノート、進路の手引き、進路通信」の発行			
		出願、面接、小論文指導(3学年)			
	セミナーの実施				
	学力向上	補習、セミナー、テスト前学習等の実施	それぞれの実施項目が生徒の実態に即したものであり、生徒の進路実現に寄与したものであったかどうか。	A	○ 評価された点 1月末時点で進路未確定の生徒が昨年より増加している状況について、単に「行ける大学」で妥協するのではなく、自身の高い目標である「行きたい大学」へ最後まで挑戦しようとする生徒の志向性が高まっている表れではないかという、肯定的な推測と評価がありました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・目先の受験対策にとどまらず、生徒自身の「学ぶ意欲」や「探究心」、強い進学志向を根本から養うことの重要性が指摘されました。具体的な施策として、各分野で情熱を持って活躍している本校OB・OGや外部講師を招き、生徒が直接話を聴いて刺激を受ける機会の創出が提案されました。 ・現在の環境下において、いかにして生徒同士が切磋琢磨し、学習へのモチベーションを高められるような工夫を凝らすかが課題として挙げられました。 ・家庭学習を含めた日々の学習意欲の低下は多くの学校の共通課題だが、その解決の切り口として「希望する進路の実現」を明確に意識させることが有効であると指摘されました。日々の学習指導と進路指導をより一層強力に連動させ、生徒のモチベーションを引き出す指導の強化が求められています。
		入試・模擬試験の分析と授業方法の改善			
		年内入試から一般入試まで進路実現への早期対策・準備			
研究・研修	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の研究	生徒アンケートにより評価する。	A	▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・タブレット端末をはじめとするICT機器の優れた機能を積極的に活用しつつも、教員と生徒が直接向き合い、人間対人間として関わること(対面指導)の重要性を軽視することなく、双方の良さを効果的に使い分ける指導が求められています。 ・単に個々の生徒がデジタル端末を操作するにとどまらず、教員と生徒、あるいは生徒同士の「生のやり取り(対話や協働学習)」の中にICTをどのように組み込み、相互理解や学び合いに生かしていくかについて、さらなる追求と実践が期待されています。	
進路研究会(職員対象)の実施	職員アンケートにより評価する。				
教育課程	教育課程の検証および実態に合わせた改善	教務係、ビジョン委員会と連携し、検証・検討できたか評価する。	B	○ 評価された点(成果と取り組み) ・現在の4学級を5つのコースに分けて展開するなど、生徒の多様な進路や興味関心に応じた、きめ細やかな教育課程の編成・推進方針に対して、高い評価と感謝の声が寄せられました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・「岡谷市英語スピーチコンテスト」において、近年参加者がいない現状に対し、大変残念であるとの声が寄せられました。生徒の視野を広げ、日々の学習成果を発揮する場として、外部の大会やコンテストへ積極的に挑戦するよう、改めて働きかけが期待されています。 ・多様な選択講座が用意されている中で、基礎・基幹となる内容と専門的・分化した内容のバランスを見直すことが提案されました。生徒には、まず土台となる基幹的な学習内容を重点的に履修させるような、確かな学力を育成するためのカリキュラム編成や履修指導の工夫が求められています。 ・今後の新設校への移行に向け、単なる現状維持ではなく、移行前から先駆的で大胆な教育課程を志向・実践していくことへの強い期待が示されました。時代の変化に合わせた、新しい学校づくりに向けた積極的な姿勢が望まれています。	
	進路実現のための生徒の希望に添った選択科目講座の編成	効果的な講座編成の見直しができただかを評価する。			
生徒指導	南高生にふさわしい身だしなみとなるよう指導する。	身だしなみの乱れはなかったか。	A	○ 評価された点(成果と取り組み) ・生徒指導の実態や具体的な事例が包み隠さず共有されたことで、学校側が事案に対して真剣に向き合っている姿勢が評価されました。また、校内での被害等の事案に対しても、警察等の関係機関としっかりと連携し、適切に対応している点に安心の声が寄せられました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・現在の項目がトラブルを「未然に防ぐ」ことに重点が置かれているように感じられるとの指摘がありました。今後はルールを守らせる指導に加え、社会人など多様な大人との出会いを通じて「人としてきちんとしていること」「魅力的な人間であること」の意義を生徒自身が感じ取れるような、前向きな人間形成の取り組みが期待されています。 ・挨拶をはじめとする基本的生活習慣の定着については、高校単独の課題として捉えるのではなく、地域の中で小学校・中学校・高校と発達段階に応じて継続的に指導し、共有していく必要性が確認されました。	
	いじめ・暴力行為の防止に努める。	定期的な面談や生徒アンケートを活用する。			
	交通安全を徹底する。	自転車事故等の件数を最小限にとどめられたか。			
	携帯電話、SNSの適切な使用方法を指導する。	携帯電話、SNSの使用にあたって問題はなかったか。			
	無断アルバイトがないよう努める。	許可制であることを周知する。			
	飲酒・喫煙・薬物防止の指導をする。	飲酒・喫煙はなかったか。			
盗難防止及び現金・貴重品の管理を徹底する。	現金・貴重品の管理を徹底できたか。				
生徒会活動	委員会活動の企画・運営と活性化、生徒会各種行事の企画運営	主体的に創意工夫のある企画運営ができたか。	A	○ 評価された点(成果と取り組み) ・南高祭(文化祭)において、生徒たちが主体的に企画・表現を追求し、一生懸命に取り組む姿や、その結果としての高い生徒満足度・来校者数が高く評価されました。学力向上だけでなく、行事や地域貢献活動を通じて人間性を豊かに育む機会が提供されている点に賛辞が寄せられています。 ・今年度も87%という高いクラブ活動加入率を維持しており、学習と部活動を両立させる「文武両道」を目指す学校の姿勢が体现されています。また、生徒会活動が活発に行われ、活動に対する自己評価もしっかりとなされている点が評価されました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・文化部をはじめとするクラブ活動をさらに盛り上げるため、南高祭での展示や体験型の企画をより充実させることや、全国規模の研究発表会など外部の大会へ積極的に参加を促していくことが提案されました。 ・生徒数の減少により、一部の部活動(吹奏楽部など)で人数確保や活動の維持が厳しさを増している現状が共有されました。その打開策として、地元中学校との「Win-Win」の関係を築く中高連携が提案されています。具体的には、高校の放送部が中学校のアナウンス指導に赴いたり、中学校の吹奏楽部と合同で地域の公民館等で演奏会を開いたりするなど、地域の中学生とともに活動を創り上げる新たなモデルの模索が期待されています。	
	学校生活の改善に向けた取り組み	学校生活の改善に向けた意識が持てたか。			
	南高祭の企画と運営	地域へのアピールと全校生徒が主体的にかかわっての企画運営となったか。			
	地域貢献活動等の推進	積極的に地域事業等に関わる事ができたか。			
	部活動の活性化および活動の広報 全校の応援意識の促進	入部率の向上と、活発な活動が持続的に行われ成果を上げることができたか。			
学校運営	行事	大会参加率を向上させ、すべての生徒が安全に活動でき、完歩率90%以上を目指す。	A	○ 評価された点(成果と取り組み) ・アンケート結果を含め、学校の教育活動や運営状況に関する情報が十分に公開されており、関係者の皆様からの満足度も高く維持されている点が素晴らしいと評価されました。 ・完歩率92.2%という素晴らしい成果を出した強歩大会について、生徒たちの頑張りはもちろんのこと、実施に向けて多大な労力をかけて準備・運営にあたる教職員への深い感謝と労いの言葉が寄せられました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・「諏訪湖が一番近い高校」という本校ならではの特色を活かし、強歩大会を今後ぜひ継続してほしいとの強い要望がありました。様々な意見がある中でも同様の行事を継続している近隣中学校の例にも触れられ、地域に根ざした伝統行事として、今後も大切に継承していくことが期待されています。	
	授業公開	12月に公開授業週間5日を設定する。これらの機会を通じ、参観者の要望・意見を十分に吸収し、それを授業に反映させることができたかどうか。 体験入学の実施 本校の特徴についてわかりやすく説明し、多くの中学生に本校を志望してもらえよう努力する。			参加した中学生に、本校の魅力を知ってもらい「よかった」「参考になった」と思ってもらえたかどうか。
	地域・他者との交流活動	地域の小中学校との交流活動	生徒会執行部をはじめ委員会やクラブなどによる地域事業への参加を促進することができたかどうか。	A	○ 評価された点(成果と取り組み) ・中学生向けの授業体験が、参加した中学生にとって非常に有意義なものとなったことが報告されました。高校の授業の新鮮さを通じて進学への期待を膨らませるだけでなく、自身の進路選択の参考となり、日々の学習意欲の向上にも直結している点が高く評価されています。 ・岡谷市内の小中学校や中学校との間で日頃から行われている交流活動に対し、感謝の声が寄せられました。 ▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・学校の中だけでなく、地域社会の人々との豊かな関わりを持つことが、生徒の人間形成において非常に重要であるとの強い認識が示されました。 ・現在の交流をさらに一歩進め、多様な場面において、高校側と地域(小・中学校側)の双方が互いにメリットを享受し成長し合えるような「Win-Win」の関係に基づく連携を、より一層深めていくことが期待されています。
		地域で開催される行事への生徒の参加の促進			
	広報活動	学校公式Webページの管理・更新	Webページの更新を頻繁に行うことができたかどうか。 新聞などさまざまなメディアを利用して本校の活動実績を広く宣伝することができたかどうか。	A	▼ 今後の課題と学校への期待(要望・提案) ・現在の同窓会向け広報誌(学校だより)を、在校生の保護者だけでなく、これから進路選択を迎える中学生にも広く提供・公開していくことが提案されました。高校のリアルな姿を届けることが、中学生の進路選択の大きな参考になると期待されています。 ・南高の新しい取り組みや、そこで活躍する生徒たちの姿をこれまで以上に積極的に広報することで、南高自体の魅力向上はもちろんのこと、地域社会全体を活気づけ、盛り上げてほしいという力強いエールをいただきました。
教育活動や各種イベント等の情報発信					